危険な総合感冒薬

抗生物質と解熱鎮痛剤をセットで

考にしてください

熱鎮痛剤、

UE申請については、

前号をご参

ると、使用頻度の高い薬剤は、

人、女49人)でした。

用が許される場合もあります。T により医学的に証明されれば、 という状況であることが担当医師 の手段では充分な治療ができない ければ、命の危険性があり、ほか

未来を担うハンドボーラーのための



「ドーピング」という言葉を聞いたことはあるだ

かいぬま・けいご、1979年生まれ。東海高(愛知)でハンドボー ルに出会い、大学時代からは審判にも携わる。現在は国立病院 機構三重病院で小児科医として、運動誘発ぜん息などの研究診 療に従事。同時に現役レフェリー、三重県審判長としても活動し、 日本協会では審判部、アンチドーピング特別委員会委員、医事 委員としてハンドボールと深く関わる毎日を送っている。

ろうか。スポーツで好成績をあげるために禁止さ れている薬物などを使うことだ。「自分には関係 ないよ」と読者のみなさんは思うかもしれないが、 じつはそうでもないんだ。この連載を通して、一 度「ドーピング」について学んでみよう。

> ていますか? さん体調を崩すことなく過ごされ 暑い夏が始まりましたが、

Vol.7

防 めに

質問、疑問をお寄せください!

当連載に関係する質問や疑問があれば、遠慮なくお寄せくだ さい。特別委員会のみなさんも、ハンドボーラーがアンチドー ピングのどんな点を知りたいのか、とても興味を持っています。 お名前 (ペンネームも可)、年令 (学年)、質問事項をご記入 の上、144ページ下欄の宛先より「「ドーピング」ってなんだ

ろう?』」係までメール、ハガキ、FAX でお送りください。

日々の体調管理をしっかりとしま 成果を全力で試合に出せるよう りますが、日ごろの練習で培った 熱く激しい大会シーズンが始ま

しょう。

うっ

などあらゆるもの)ドリンク剤、 に使用した薬剤(処方薬、 市販薬

グを みな

ます。 会の参加者を対象に、実際に大会 査が施行されてもおかしくない大 分の健康管理のために薬を使って とがおわかりいただけたかと思 紹介したいと思います。 回までのアンケートとは別に行な ていただくというアンケートを前 の直前期(2週間前から)に使用 いるのだろうと思いませんか? そこで私たちは、ドーピング検 ました。今回は、その結果をご た薬剤をすべてリストアップし でも実際にどれくらいの人が自

参加チームに対し、 大会直前期

識が充分」には浸透していないこ おいては、 だまだ日本のハンドボール選手に 結果をお話しさせていただきまし て、アンチド 5 月、 ーピング〟の危険があって、 いろんなところで、うっかり 6月と2ヵ月にわた アンチドーピングの意 ーピング意識調査 ま 0 漢方薬、サプリメント なわれる可能性が充分にある全国 式の際に提出。 ン剤を含む)を記載し、 大会を対象とした。 経緯からもド 調査を行なった大会はこれまで

ーピング検査が行

結果 入れていた。 止物質の入った製品を体内に取り (男13人、女子8人) 全出場チー . 中 13 にお チ 4 11 て禁 21

明します。 的であるため、まずその状況を説 その中で2人に関しては、 例外

T U E 的使用にかかる除外措置(以下、 れる状況であり、 禁止物質の使用はもちろん許可さ る状況でした。こうした状況での は命の危険性があった可能性のあ 用しており、ほかの薬剤の使用で 目的に禁止物質を含んだ薬剤を使 疾患のために病院を受診し、救命 人は、 症状の重いア の申請を適切に行 実際に **%治療目** ル ギ

が、 ては、 抗アレルギー剤についてです 一般的にアレルギー疾患とし ぜん息、 アトピー ·性皮膚

> で、極めて注意する必要があり レドニンは禁止方法になりますの ースもあります。この飲み薬のプ う名前の薬を飲み薬で使用するケ によっては、^プレドニン、とい

事前に申請してもらえれば、より

す。この選手の場合は、TUEを

は、

咳止め薬(コデインという禁

残りの3人が使用した禁止薬剤

ステロイド剤の投与方法

んだ薬剤を使用したという例で

よい対応であったとは思います。

ずれにせよ、この薬を使用しな

用した選手が2人でした。 含まれる麻黄を含んだ薬剤) 選手が1人、漢方薬(興奮作用が 止物質を含んだもの)を使用した

炎、

アレルギー性鼻炎、

花粉症と

次にアトピー性皮膚炎に対する

を使

が必要な病気を発症し、その手術

たく問題のない1例です。

アンチド

ーピングとしてまっ

あえて今回はお話ししません

がある。ことをしっかり伝えて、

、禁止物質の入っていない薬剤を

もう1人に関しては、

緊急手術

中の全身管理の際に禁止物質を含

11

を含んでいると認識してくださ いるもののほとんどは、禁止物質 が、総合感冒薬として発売されて

ださい。

処方してください

、と相談してく

が、この方法は問題ありません。 ように投与する方法が使われます きく吸い込んで気管支に作用する

しかし、**重症であったり、**

医師

ときなどには、病院を受診すると 用した選手は全員で14人(男55 ·剤でした。とくに風邪をひいた 内服した薬剤の種類別で見てみ 次に禁止物質ではない製品を使 抗生物質、抗アレルギ 解 です。 場合がありますので、 テロイド剤が使用されています。 のアレルギーの治療には、 11 って、禁止の場合と禁止ではない ステロイド剤はその投与方法によ った疾患をよく耳にします。こ 注意が必要 時々ス

管内、 禁止ではない方法:塗り薬、 て)、坐薬 禁止の方法:飲み薬、注射薬(血 関節内、 皮下注射などすべ 点鼻

を使用する場合は吸入薬という大 ぜん息である場合、 ステロイド

いのですので、受診された医師に は、禁止物質が入る可能性が少な

ーピング検査を受ける可能性

吸入薬、点耳薬など れやすい薬と言えます。

用が認められました。いずれもエ 禁止薬剤を含んだ総合感冒薬の使 にあったものの紹介です。

ここからは、極めて危険な状況

16 人 で

ます。総合感冒薬を同時に処方さ 処方されることが一般的だと思い

れる医師も多い

でしょう。

抗生物質と解熱鎮痛剤につい

7

にも詳細に説明してきました んだ総合感冒薬でした。これまで フェドリンと呼ばれる興奮剤を含

> ません。 おいて、ステロイドは比較的使わ のようにアレルギー疾患の治療に 場合があり、 ても時に飲み薬の方法を使われる る使用方法もまったく問題はあり とが一般的です。この塗り薬によ ロイドの入った軟膏で治療するこ 治療ですが、皮膚に対して、 しかしながら、 注意が必要です。 この疾患にお ステ

も使用されることがあり、 ギー剤が混ざった薬剤(飲み薬) ん禁止薬剤となります。 また、 疾患をお持ちで病院に受診され ステロイド剤と抗ア アレルギ もちろ レ ル

123

(プロテイ 大会開会

かい当

識 0) す

を

持

2

て、

絶

対

用

る

61

う

強

知然 用

と思

0

7 私

61 b

ま 医

使

摂て

アンチドーピング ホットライン

電話番号

090-9304-5420

メールアドレス

大 す。 大丈夫だ 気 ル ì 協会 を減 handball@japan-sports.or.jp 持 正 す。 解 7 を を かしず かしず とにた 掲載させて ア お ま ン 共 た。 っん 用い理 防 会 け 版 卜 私たち 私たち 先日、 ます 解 止使用 し る 1 ŀ か チ に公開 今 が よう が、い合 5 T ラ 2 の た Ź ĸ イ 0 \$ お薬 かなこ 載させ 可能薬 H で、 に ン は ン 1 誌面 なに で 特別に × ピ せ 0 n 61 され タ 本 ング などを などを かましたけに配面上に 3 体 ぜ 思 など は Z n 13 1 まっ 年 で ましただ V. な ij ン 育 2 あ を困 許 度えグ 協 利 7 " し

ること 病気 からから 取は ン す か そう す。 チ た ŋ た、 L こう までも B な ĸ め ĸ 7 に分類さ は な ケ た は、 海外 11 簡 13 ガー京 で した栄養ド ピ \mathbb{H} ピ 理由 場合 単 とは、の際して なに ほ シ 本 シ 生 で グ グ 際に L ハ が れ産 は か 特 ン が な z 13 13 ĥ あ あ 必 る ح 莂 K \mathcal{O} 少 入 ñ n る 13 必要な薬剤も ガチ員会とし ることも 事実 いような製品 61 ボ 1) ま る でも 1 ス b せ ク 0 h で

b 0

を願 持 0 2 7 b 13 b ます え る

でわに医

タ さ れ 認 もはこ 1] でムポ 思 真 進 らのく 人も 認定 スー 带] 医 似 思 備 多の \$ な可 チ ようる 13 4 いれし b ピ 卜 7 定 同 " 師 ます。 Ĺ 少 チ い能 1 n が ら 風 な大変素晴らているもの。 が は ス を受け など ĸ には ています 薬 性 存在 チ に 61 0 \mathcal{O} 0 来剤を決まったとして ´ミ عَ ゲ 配 毎年ド ポ 方 1 心が ク 4 症状 薬 が飲め 検査 A 布 を H ただくこ O V) 0 0 しまし 1 セッ ž " た行 本体 で、 選 る 推 0 ĸ 医師(なうに に ħ, 制度 手 察で h で同 てくだ 差 こう 1 対 育 がと の検 ピ ٤ た。 で 0) ク 5 ではあっか受診 とも す ンス 夕 にはこの が 協 L 思 思 た査 す じ で違反となるけれど おした際に るけれど いう形で 1 61 ピが 会認定 る 師 グポ ĵ あ いわ る 内 z した 、 取り組み た方法な、 ・ が ーツ 認識 0 ŋ 大切 と 容 61 单 が お VI O 物質 育協度 で ĸ 推 チの そら う薬 が か 高 b ク 奨 ス ٤ チ を はに、 協 す ら会 すのたいで n く 非 主 る な さ b ま 人 " だの ク いで、ぜい なのホール なのホール ること ド会さ 栄 がダ 常に お 1.0 が医 ることができませいかと思いま のホームページムのホームページムのホームページムのホームページムのホームページムのホーツドールのホームでありません。 良師 た。 ク 話 0 61

を 栄養 方が使 養ド X れ似 B Η 0 2 L これ が良くてどの製品には が想像している製品はなる製品はない。 かと ひご利 77 1] Р $\widehat{\exists}$ 検索) 用 ン _↓ た まで 本 ク つ 64 ļ 体 用 ては ポ う しいみ用 とにうにい33 育 す 索か協 1 <

□ 熱・痛み(鎮痛・解熱・抗炎症薬・片頭痛薬)

注意 市販業には禁止物質の配合が多い。 図2 アスピリン

2 筋肉の痛み・こわばり(中枢性筋弛緩薬)

図細 ミオナール (エペリゾン塩酸塩) テルネリン錠 (チザニジン塩酸塩)

3 かぜ (総合感冒薬)

「茂夏・市販菜には禁止物質の配合が多い。
 ・かぜに譲渡者効な菜はなく、症状にあわせて禁止物質を含まない菜を担め合かせて使用することが勤められる。
 「区図」にご合照数ペレックス配合開始

SG配合類粒 **−** €€

4 せき・たん

注意 市販業には禁止物質の配合が多い。 図面 アストミン (ジメモルファンリン酸塩)

5 じんましん・アレルギー(抗アレルギー / 抗ヒスタミン薬)

6 胃炎・胃潰瘍

■ アルリルニン (スクラルファート水和物) オメブラール度 (オメブラソール) ガスション (ファモデジリート) ガスション (ファモデジリート) ガスション (ファモデジリート) ガスション (ファリン) ヴァブロンカブセル (ファンブラソール) オキシウムブセル (ファンブラソール) マニログラス機関和企業権 (水南ビアルニニフム配合)

■殿 アバロンZ ガスター10

7 腹痛 (鎮痙・鎮痛薬)

ブスコパン錠(ブチルスコポラミン臭化物) コランチルA類約 ストバン サクロンQ

8 健胃・総合胃腸薬(配合薬)

医療 S・M配合散 つくL,A・M散 ■般 エビオス錠 第一三共胃腸薬 パンシロンG

9 吐き気・乗り物酔い

図園 トラベルミン配合館 (ジフェンヒドラミンサリチル機塩・ジブロフィリン) ナウゼリン (ドンベリドン) ブリンペラン館 (メトクロブラミド) ■別 アネロンチュアブル + 740ンチュアブル

10 下痢・整腸薬

図図 タンナルビン (タンニン酸アルブミン) トランコロン (メベンゾラート臭化物) ビオフェルミンR (順性乳酸菌) ミヤBM (酪酸剤) ラックビ一機和 (ビフィズス菌) ロベミン (ロベラミド塩酸塩)

■酸 ストッパ下痢止めEX セイロガン糖衣A 11 消化酵素配合薬

図商 タフマックE ベリチーム配合顆粒 ポリトーゼ プカモト消化薬

12 便秘

図徳 酸化マグネシウム 新レシカルボン坐剤(炭酸水素ナトリウム・無水リン酸ニ水素ナトリウム) 新してカカルウェ州 (Sellary April 1997) (April 199

13 不眠・イライラ(催眠鎮静薬)

注意
位眠鏡酵薬の海外への持ち出し、持ち込みには厳重な規制がある。
区域 アモバン錠 (ゾビクロン) アモバン錠 (ゾピクロン) セルシン錠 (ジアゼパム) ハルシオン錠 (トリアゾラム) マイスリー錠 (ゾルピデム酒石酸塩) マイスシー級(フルビノム) コゼレム錠(ラメルテオン) ドリエル - 89

11 痔疾用薬

注意 経直腸による糖質コルチコイドの全身的使用 (ブレドネマ注腸 など) は禁止されるが、肛門周囲の疾患に対する局所使用は可

能。サーカネッテン配合総 ヘモクロンカブセル(トリベノシド) ポステリザン軟膏(大腸菌死菌製剤) 内服ボラギノールEP タウリン坐薬

15 鼻づまり (耳鼻用薬)

(注目・機関コルチコイドの全身的使用は禁止されるが、耳・鼻の疾 悪に対する場所使用は可能。 一般に対する場所使用は可能。 一部での使用は可能。 「国面 インタールは耐能(クロモグリク能アトリウム) ガジデンル情報後(クトラコンマフル機型) アーベルに対象(クトラコンマフル機型) フリンピンボ(ブラソリン情報型) フリンピンボ(ブラソリン情報型)

一般

エージーノーズ パプロン点鼻クイック 16 目薬(眼科用薬)

注意 糖質コルチコイドの全身的使用は禁止されるが、目の疾患に対 する局所使用は可能。

原染症

図面 クラビット点限液 (レボフロキサシン水和物)
タリビッド (オプロキサシン)

マイティア抗菌目薬
ロート抗菌目薬EX

ビタミン類・疲れ目

とタミプル・観れ目 図 サンコ(通識 (2 アノコ(ラミン) ランデビクン (7 ラビンアニンジネクレオチドナトリウム) コンテビクン (7 ラビンアニンジネクレオチドナトリウム) 大工業ペートキイワイ 図 人工業ペイティクを設 大工業ペーチャイティクを エスタペーターの エスタペーの エスタペーターの エスタペーターの エスタペーターの エスタペーターの エスタペーターの エスタペーターの エ

スマイルコンタクト 接線等 コア・イボンの フリッシュアイAG 花地窓・アレルギー 図 インタールに開送(クロモグリク散ナトリウム) ガジテン・施設度(ケロモグリク散ナトリウム) バグ・ノールに開送(オコリラン・「機楽) バグ・ノールに開送(オコリラン・「機楽) リガイン・振送(トラニッスト)

17 うがい薬・口腔内殺菌薬・口内炎薬

注意 糖質コルチコイドの全身的使用は禁止だが、口腔内の疾患に対

図画 解しルナイトの認識が使用を廃止だか、比較が必必能に対する局所を開比可能。
 アクラッチに胚内的が解したプレンアセトニト) 透明・サブル配子(配着) (デキサメタナン) デキサルゲン口配用投資 (デキサメタナン) SPトローチ明治 (デカリンコム土他)
 深油的のどクールスプレー ペレックストローチャイン・ファイン・マークレックストローチャイン・アクリンストローチャイン・アックストローチャイのアックストローチャイのアックストローチャイン・アックストローチャイン・アックストローチャイン・アックストローチャイン・アックストローチャイン・アックストローチャイのアックストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アークストローチャイン・アーケークストローチャイン・アークストローチャイン・アーケークストローチャイン・アーケークストローチャイン・アーケークストローチャイン・アーケークストローチャイン・アーケークストローケ

18 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬

30年日本・カルフイルクス 31 イトリフールのプセル (イトラコナソール) イナビル吸入原味噌 (コース・ビルマクタン健エステル水和物) クラリス (グラリスロマイシグ) フリス (グラリスロマイシグ) プラリス (グラリスロマイシグ) プラリスロマイタグス (アダウスロマイシグ水和物) ジスロマック線 (アダクロール) ジスラック線 (アダウスロマイシグル物) ジステスル (オセルタミニルリン機関) シスマイング線 (ステイルン機関) シスマイング線 (ステイルン機関) レンプ (サナミにル・大阪機関) ルレップ (サナミにル・大阪機関) ルレップ (サナミにル・大阪機関)

19 経口避妊薬

[注意] 既往症により、また喫煙により自栓の危険性あり、性行為感染 違の予防にはならない。
■ アッジュミリ後、2億(エチールエストラジオール・レボノルグストレル) マーベロン21、28(エチールエストラジオール・デンゲストレル) ノルレル後(レボノルグストレル) 20 ビタミン・滋養強壮

ビタミン剤:各種ビタミンは禁止されていない。しかし、ビタミン 原に基々の激は実はどを危合した製剤、とくたり間熱品には禁止物 資と含むものがあり、原薬品の過程に対容を増加してあるが、原 深起以外は使用しないほうが傾何である。
 延期性対象性、原薬品にも例えれいナップストリキニーネなどの 解し物質やモニター物板を含むものがある。近次を含むものがある。近次を含むものがあり、 般には、単純のサライ、前上側面側をとなることが多り、使用しな 級にも組みが利からく、前上側面側をとなることが多り、使用しな

いほうが安全。

21 鉄欠乏性貧血(鉄剤)

区型 フェルムカブセル (フマル酸等一鉄)
フェロ・グラデュメット袋 (硫酸鉄)
フェロミア (クエン酸等一鉄ナトリウム)
コアイチ
マスチゲン-S袋

22 気管支炎・気管支喘息・COPD

キブレス(モンデルカストナトリウム) キュパールエアシール(ベクロメタンプロピオン酸エステル) サルタノールイン・ラー(サルプタモール搭載塔) シムピコ・トラーピュペイラー(ボルモデロールブス機関水電路、ブテツニド) シングレア(モンデルカストナトレンイン セレベント(サルメデロールキンナル撤載) オギール(デオインリン)

ティドール (デオノイジン) デルシガンエロソル (オキシトロビウム臭化物) バルミコート (ブデソニド) アルタイドエアソール (フルチカゾンプロビオン酸エステル) ベネトリン吸入液 (サルブタモール硫酸塩)

24 痛風・高尿酸血症

アダラート(ニフェジピン) アムロジン(アムロジピンペシル酸塩) オルメテック錠(オルメサルタンメドキソミル) ティオパン線(パリルサルタ) ニューロタン線(ロサルタンカリウム) ノルバスク(アムロジピンペジル機塩) プロプレス線(カンテサルタンシレギセチル)

25 糖尿病薬

注意 利尿薬との配合薬は禁止。 図画 アダラート (ニフェジピン

注
 ・インスリン類は禁止。
 ・SU系、ビグアナイド系、インスリン抵抗性改善薬、食後血糖 改善薬、DPP・4 招害薬、GLP・1 受容体作動薬は使用可能。

26 ワクチン

図题 インフルエンザHAワクチン サーバリックス (子宮頸がん予防ワクチン)

27 卵胞・黄体・混合ホルモン (無月経)

図画 デュファストン錠 (ジドロゲステロン) ブレマリン錠 (結合型エストロゲン) ヤーズ配合錠 (エチニルエストラジオール・ドロスピレノン) 28] 消毒薬

区函 イソジン (ポビドンヨード) オスパン (ペンザルコニウム塩化物) ヒビデン (クロルヘキシジングルコン酸塩) モシ オキシドール マキロンS

本リーフレットは日本体育協会のホームページよりダウンロード できます。ドービング防止情報と併せてご確認ください。 HPはこちら

TEL.03-3481-2240

http://www.japan-sports.or.jp/medicine/doping/tabid. 540/Default.aspx





K

際は、

必ず

担当医に相談

す

で

か

ス か 相

ツいれ

まる

談

z

- ■ドーピング検査のうち競技会検査での使用可能薬をあげ ました。競技会外検査では競技会検査の禁止物質の一部 が検査されますから、本リストの薬は両方の検査につい ての使用可能薬です。
- ●禁止物質でも申請手続きにより「治療目的使用に係る除 外措置(TUE)」を受けられる場合があります。また使用 量が少なく尿中濃度が低ければ使える薬などもあります が、そのような使用に条件がある薬はあげておりません。 *競技種目によって使用が禁止される薬もあります。各 競技の禁止物質リストを十分に注意して参照してくだ さい。
- *禁止物質の指定から外れて使用を監視されるだけの物 質(監視プログラムに掲載された物質)がありますが、 これらを含む薬はとりあげていません。
- ●本リストは一部の例示であり、他にも多くの使用可能な 薬品があります。

〈凡 例〉

医療: 医療用医薬品 [医師の処方が必要な薬] - 般: 一般用医薬品 [薬局で買える薬]

()内は成分名

名前全体が完全に一致することを確かめてください。 ほとんど同じ名前でも頭に「新」が、終わりに「錠」や 「会社名」あるいは「アルファベット」がついているだけ で組成が異なる場合があります。



公益財団法人 日本体育協会発行

125 124